

4.2 河川に生息する生物の確認状況 (河川の自然度・健全度)

ここでは、生態系の健全さの指標となる食物連鎖網の上位種の猛禽類ミサゴ、チュウヒや、ヤマセミ、カワセミ、セキレイ類などの河川や水辺と関わりの深い種の生息状況を整理し、現在の河川の自然環境について検討しました。

なお、前回、前々回調査との比較は、調査の範囲や時期、回数などの条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしか見られない種もあることから、比較結果は同一河川での消長を示すものではなく、全国的な傾向を検討するための参考です。

【種の全国的な分布状況 (オオハクチョウ、コハクチョウ)】

(鳥類調査)

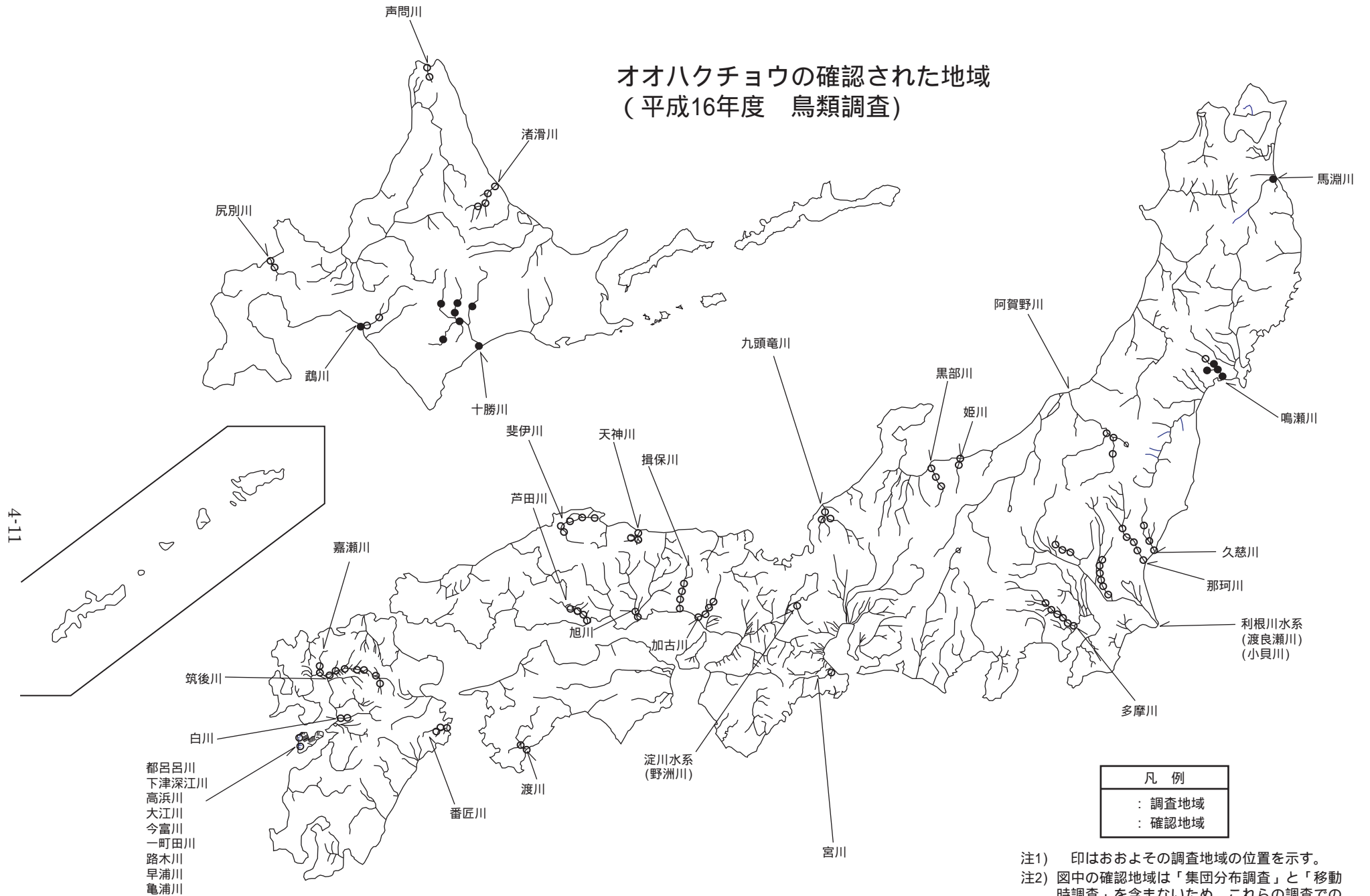
・ オオハクチョウ、コハクチョウを9河川で確認

冬の渡り鳥の代表として、オオハクチョウとコハクチョウの確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った一級河川28河川のうち、オオハクチョウは北海道地方の2河川、東北地方の2河川、関東地方の1河川、中国地方の1河川の計6河川で確認されました。コハクチョウは北海道地方の2河川、東北地方の2河川、北陸地方の2河川、近畿地方の1河川、中国地方の2河川の計8河川で確認されました。

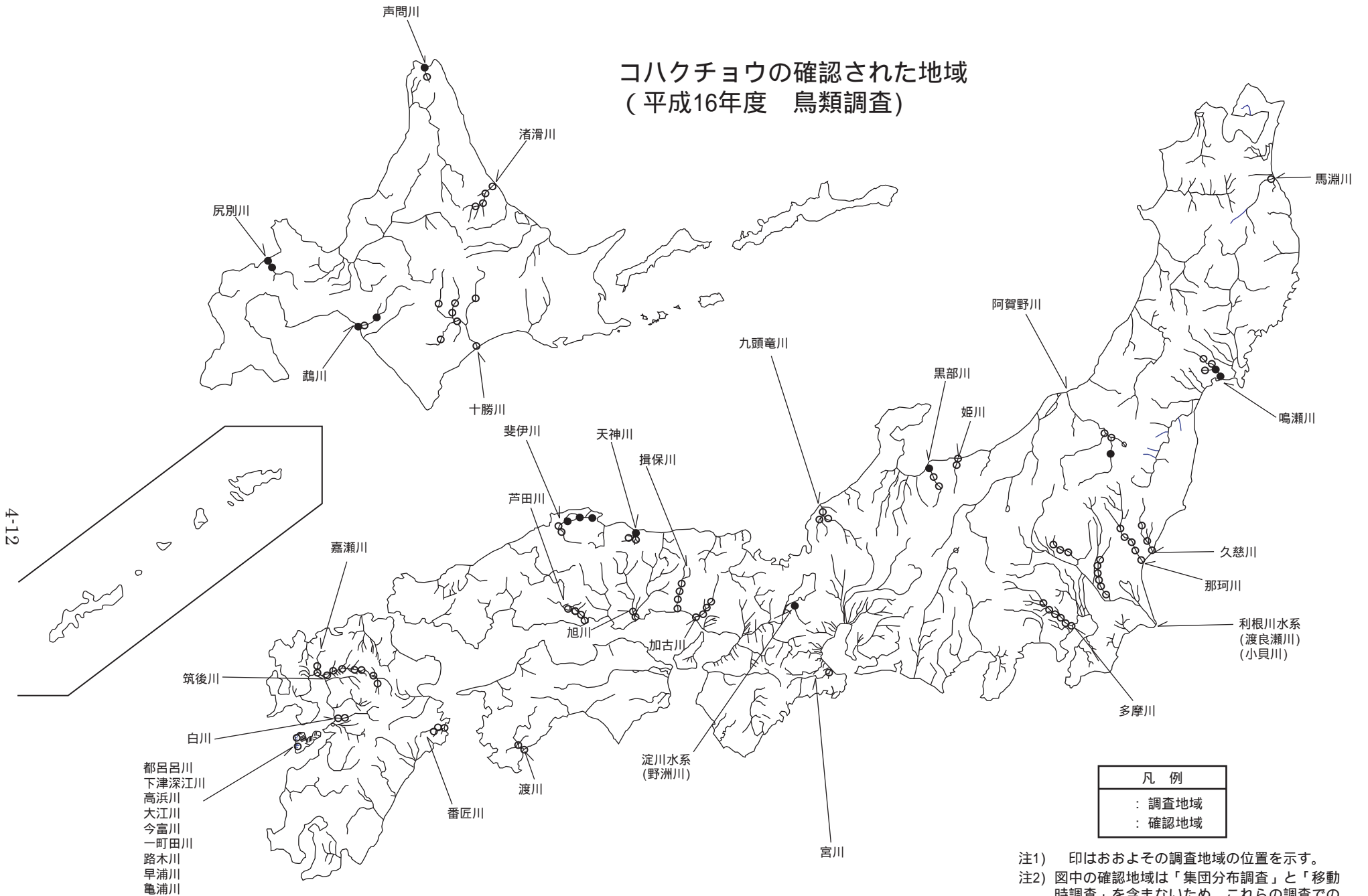
(資料掲載: 4-11 ~ 4-12、4-50 ページ)

オオハクチョウとコハクチョウは、ともに北日本や日本海側の河川の静水域や湖沼等に冬鳥として飛来します。今回とりまとめを行った一級河川28河川のうち、オオハクチョウは北海道地方の2河川、東北地方の2河川、関東地方の1河川、中国地方の1河川の計6河川で確認されました。コハクチョウは北海道地方の2河川、東北地方の2河川、北陸地方の2河川、近畿地方の1河川、中国地方の2河川の計8河川で確認されました。

オオハクチョウの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



コハクチョウの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



・ 鳥類確認種の多くが河川で繁殖行動

河川が鳥の繁殖場所として利用されている状況について整理しました。

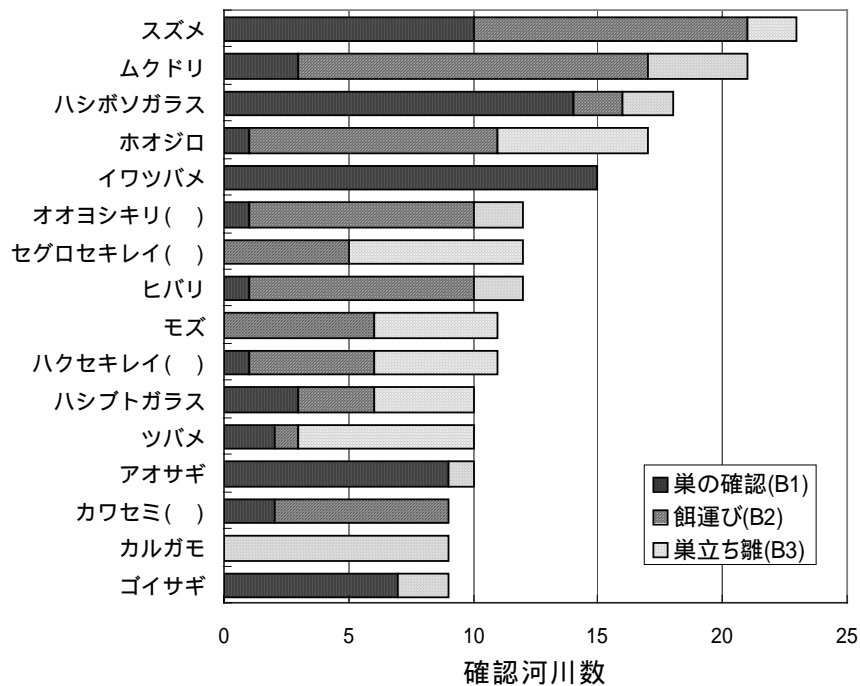
巣の確認・餌運び・巣立ち雛などの繁殖確度の高い繁殖行動が確認された河川数の多い種は、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ホオジロ、イワツバメなどでした。

(資料掲載: 4-14 ページ)

鳥類の観察情報として「河川水辺の国勢調査」では、巣の確認・餌運び・巣立ち雛・巣材運び・擬傷(警戒)・囀りおよびディスプレイなどの行動様式を記録しています。特に巣の確認・餌運び・巣立ち雛などの行動は、河川域での繁殖が確実な情報として考えられ、その他の行動も近くでの繁殖を示唆する情報であると捉えられます。

巣の確認・餌運び・巣立ち雛などの繁殖行動が確認された河川数の多い種は、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ホオジロ、イワツバメなどでした。

なお、本調査の繁殖行動は、鳥類の種・個体数等を調査するときに、偶然見られた繁殖を示唆する行動を記録したものです。繁殖を示唆する行動の確認を目的に追跡したものではありませんので、繁殖行動が観察されていなくともその河川もしくは周辺の地域で繁殖をしている可能性を否定するものではありません。



注1) 繁殖の確度の高い繁殖行動 (B1~3) の確認された河川数が今回調査を実施した1級河川の3割以上の種を示した。

注2) 種名の後の()は、分析項目「河川に関連の深い種」で取り扱った種を示す。

鳥類の繁殖確度の高い繁殖行動が確認された河川

【高次消費者（ミサゴとチュウヒ）の確認状況】

(鳥類調査)

・ 猛禽類のミサゴは全国の一級河川の約 9 割で、チュウヒは約 4 割で確認

水辺の食物連鎖の上位種として、魚を主な餌とし河川に依存性の高いミサゴと、河川のヨシ原などに生息し、ネズミやカエル、小鳥などを餌とするチュウヒについて確認状況を整理しました。

ミサゴは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、26 河川で確認されました。また、チュウヒは、12 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-16 ~ 4-17、4-50 ページ)

ミサゴは、魚を主な餌とする猛禽類で、河川や湖、海岸などに生息しています。環境省のレッドデータブック (2002) では準絶滅危惧種に指定されています。ミサゴは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、26 河川で確認されました。確認された調査地区の位置は、主に河川の河口から上流域まで広範囲でした。ミサゴが上流まで確認された河川は、採餌を行えるような広い水面と豊かな魚類資源を保った場所として注目できます。

チュウヒは冬鳥で、シベリア・極東から越冬のため飛来しますが、北海道や本州中部以北では繁殖することが知られています。ネズミやカエル、小鳥などの小動物を餌とし、河川の中洲のヨシ原やセイタカアワダチソウ群落、平地の広いヨシ原などに生息し、ヨシやススキの茎で地上に巣を造ります。環境省のレッドデータブック (2002) では絶滅危惧 II 類に指定されています。チュウヒは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、12 河川で確認されました。確認された調査地区の位置は、主に河川の河口から下流域でした。確認時期をみると主に渡りの時期か越冬期でしたが、北海道地方の鶺川などでは繁殖期(主に 5 ~ 6 月)にも確認されました。

チュウヒの確認時期

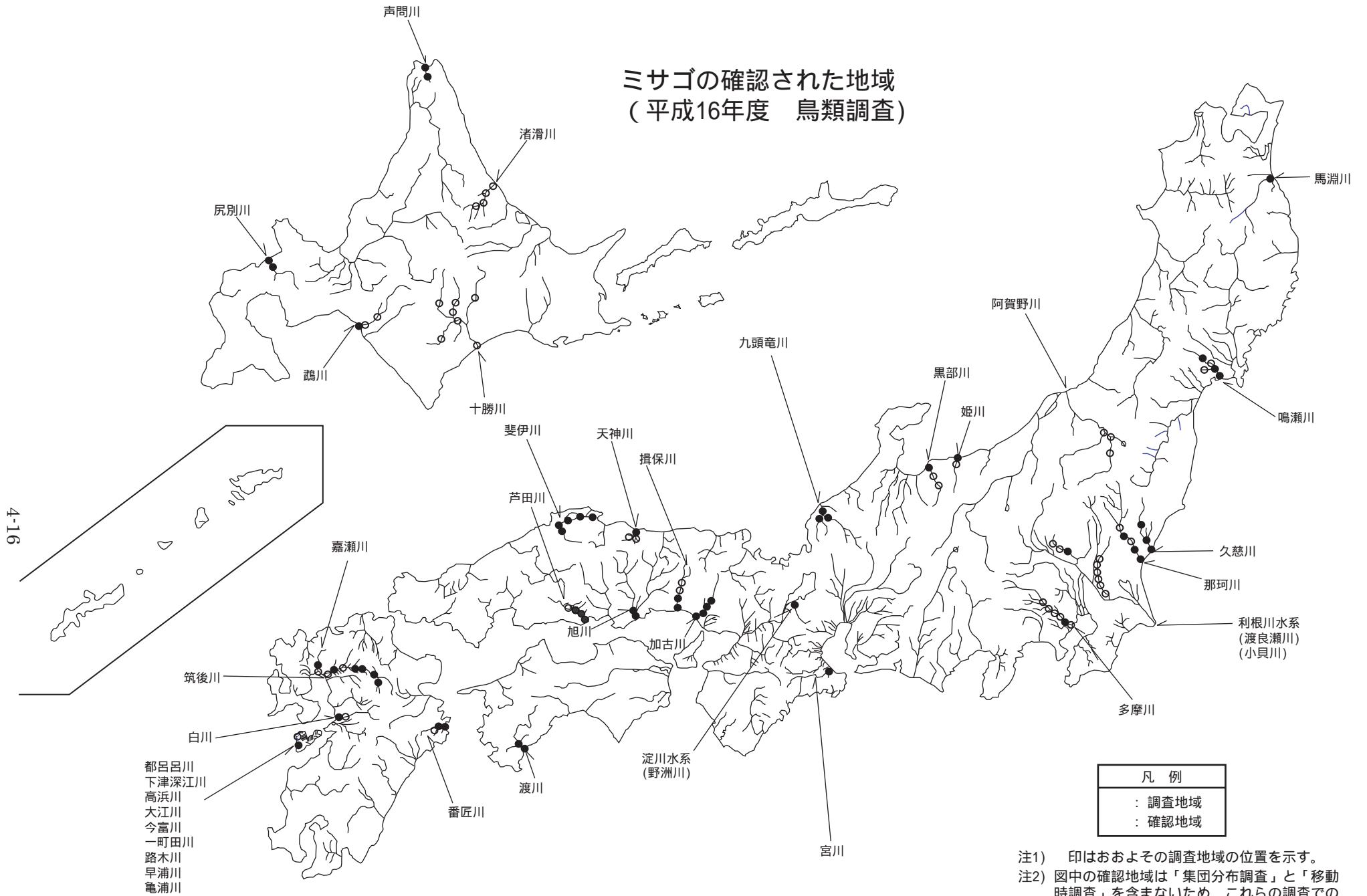
地方	調査時期	2004												2005					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
北海道	河川																		
	鶺川				3		4				2								
	声間川						1			1									
東北	鳴瀬川														1				
関東	久慈川									1									
	那珂川													5					
	利根川(渡良瀬川)												1		2				
北陸	阿賀野川						()			(1)	()								
中部	宮川												3						
近畿	淀川(野洲川)									1									
	九頭竜川									2									
中国	斐伊川												2		4				
	旭川												1						
九州	白川										1								

注1)チュウヒが確認された河川のみを記載した。

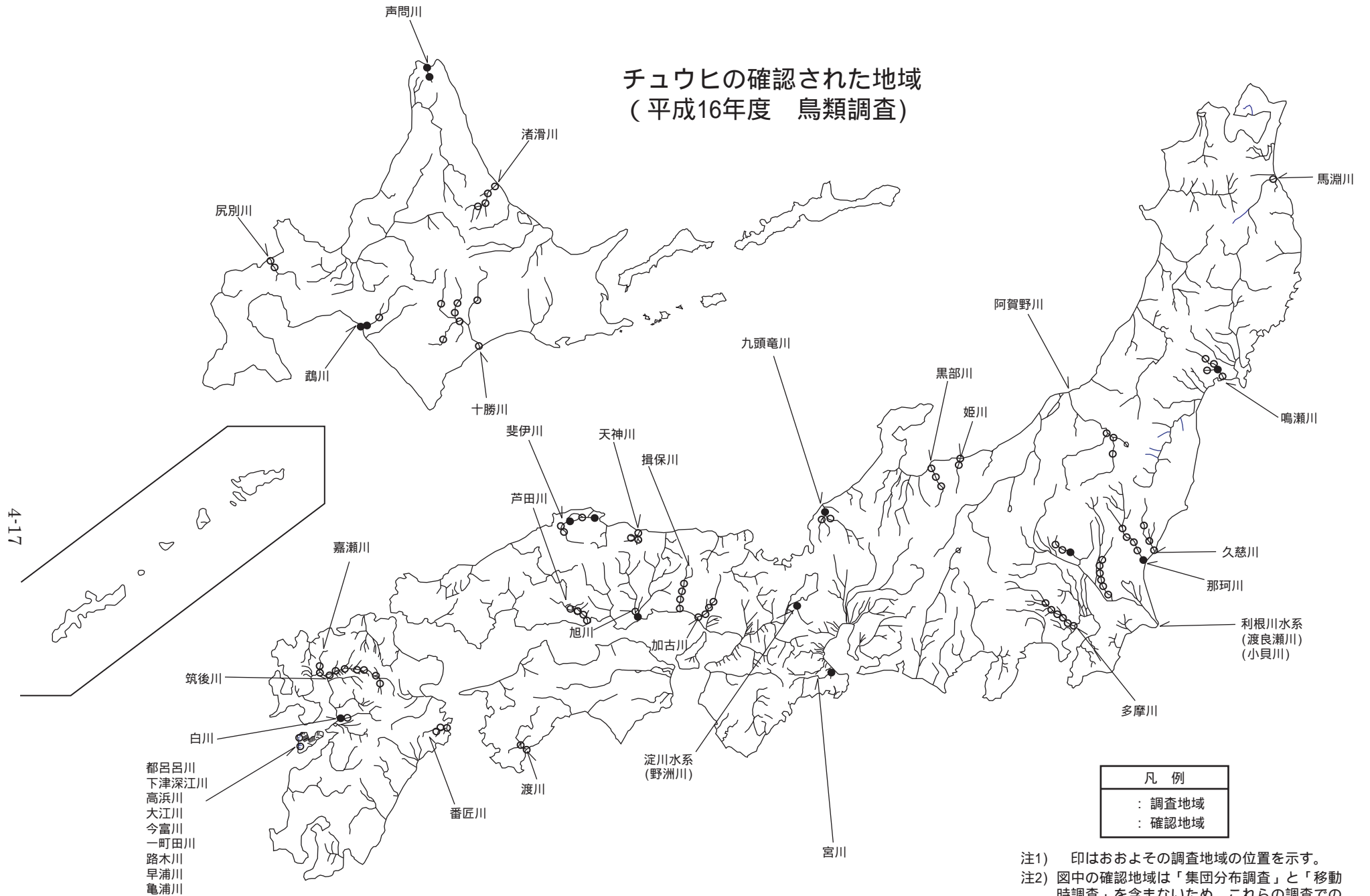
注2) は調査月、数値は確認個体数を示す。

注3) () は2003年度の調査結果

ミサゴの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



チュウビの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-17

凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【高次消費者（オジロワシとオオワシ（天然記念物））の確認状況】

(鳥類調査)

- 猛禽類のオジロワシを北海道、東北地方、北陸地方、中国地方の 8 河川で、オオワシは北海道地方、北陸地方の 5 河川で確認

水辺の食物連鎖の上位種であり、また国の天然記念物でもあるオジロワシとオオワシの確認状況を整理しました。

オジロワシは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、北海道、東北地方、北陸地方、中国地方の 8 河川で確認されました。また、オオワシは、北海道地方、北陸地方の 5 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-19 ~ 4-20、4-50 ページ)

オジロワシ、オオワシは、魚や水鳥を主な餌とする大型の猛禽類です。オジロワシは北海道で繁殖し、海岸や湖沼周辺、河川流域の大木に営巣します。冬季には越冬のため本州北部や中部にも飛来します。最近は、人間の活動圏近くで営巣するつがいが増え営巣地はやや増加傾向にありますが、反面人為的影響も大きく繁殖は必ずしも安定していません。オオワシは、ロシアのオホーツク海周辺で繁殖し、越冬のため北海道や本州北部に飛来します。オジロワシ、オオワシともに、極冬期には漁業活動から供給される魚にも依存しています。また、北海道では狩猟で放置されたエゾジカの死体なども食べますが、残留した銃弾を飲み込んで鉛中毒を引き起こす個体が増加したことから、現在では鉛製銃弾によるシカ猟が禁止されています。オジロワシ、オオワシともに、国の天然記念物（文化財保護法）および国内希少野生動物種（種の保存法）に指定されており、また、環境省レッドデータブック（2002）によりオジロワシは絶滅危惧 B 類、オオワシは絶滅危惧 類に指定されています。

オジロワシは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、北海道、東北地方、北陸地方、中国地方の 8 河川で確認されました。また、オオワシは、北海道地方、北陸地方の 5 河川で確認されました。確認時期をみると主に越冬期でした。

オジロワシの確認時期

地方	調査時期	2004												2005					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
北海道	河川																		
	渚滑川									6				9				1	
	尻別川															6			
	鶴川										1					3			
	十勝川												7					3	
	声間川						2						12						
東北	鳴瀬川															1			
北陸	阿賀野川		2																
	姫川												1						
中国	天神川														1				

オオワシの確認時期

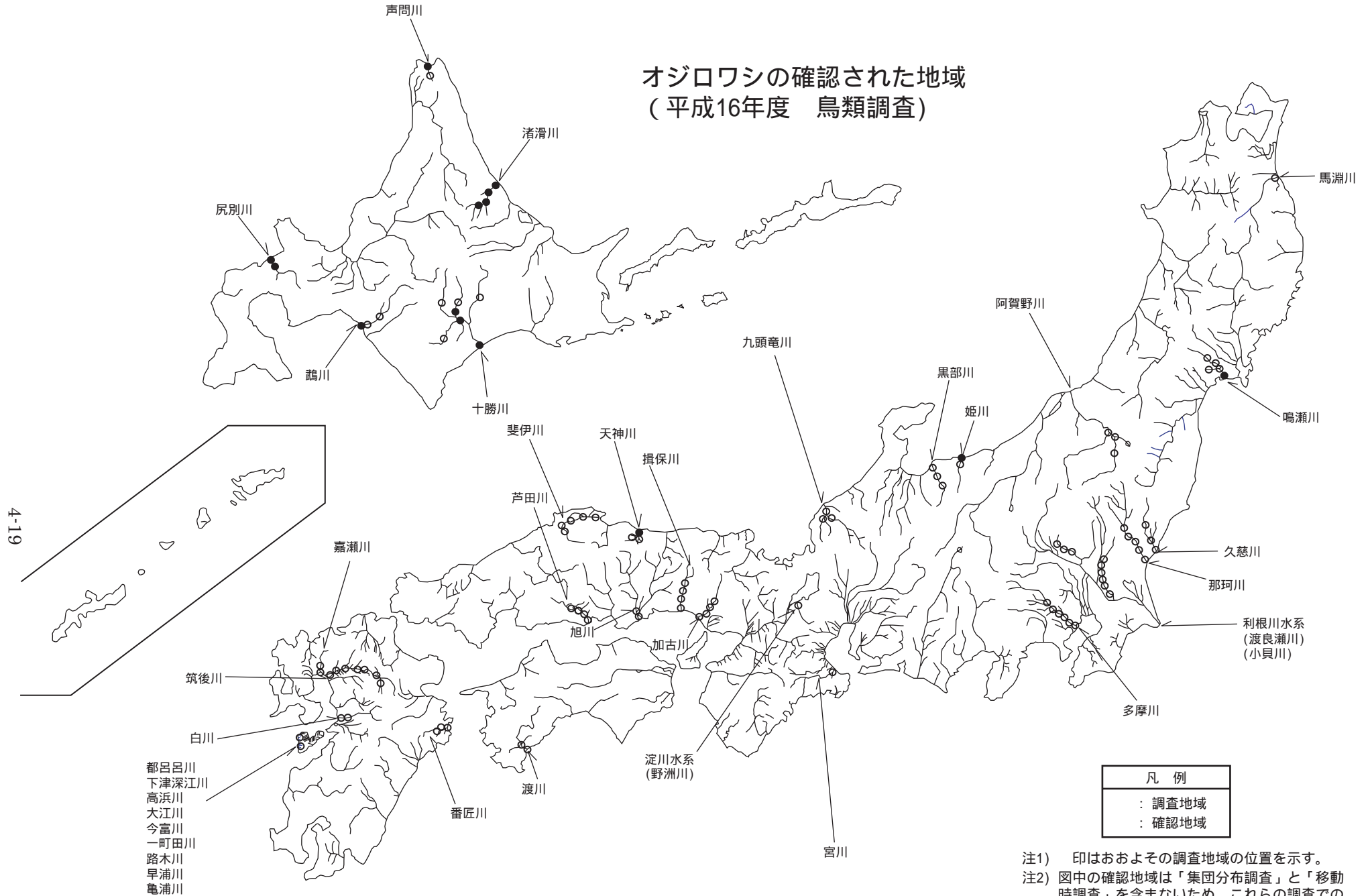
地方	調査時期	2004												2005					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
北海道	河川																		
	渚滑川																	1	
	尻別川															4			
	鶴川															3			
	十勝川												4						
	声間川											5							
北陸	姫川											1							

注1) オジロワシ、オオワシが確認された河川のみを記載した。

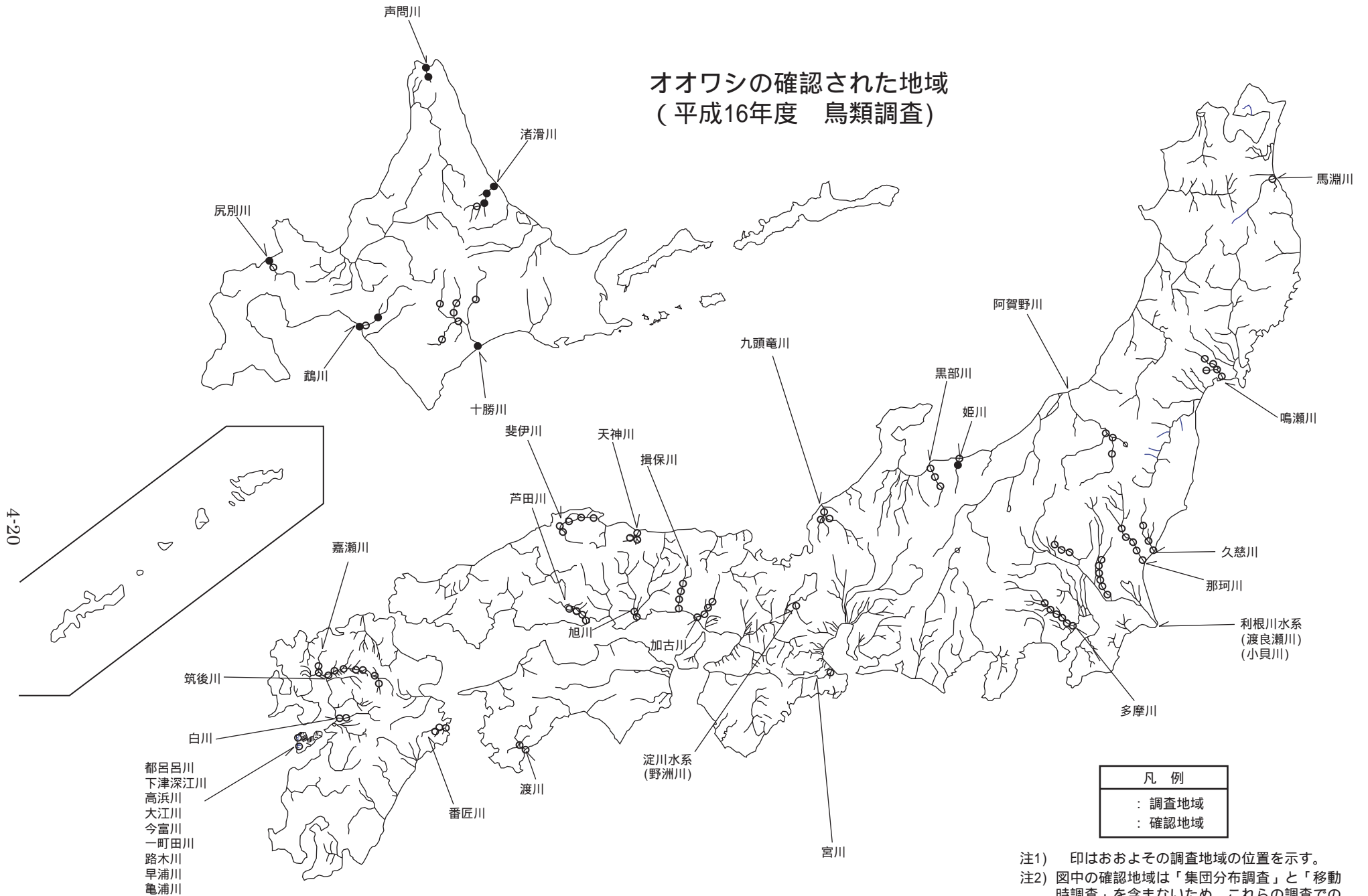
注2) は調査月、数値は確認個体数を示す。

注3) ()は2003年度の調査結果

オジロワシの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



オオワシの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-20

凡例	
○	: 調査地域
●	: 確認地域

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【河川に関わりの深い種 (オオヨシキリ、コヨシキリ) の確認状況】

(鳥類調査)

- ・ **オオヨシキリは全国のほとんどの河川で確認、コヨシキリは 15 河川で確認**
 ヨシ原で繁殖する代表的な鳥であるオオヨシキリとコヨシキリの確認状況を整理しました。

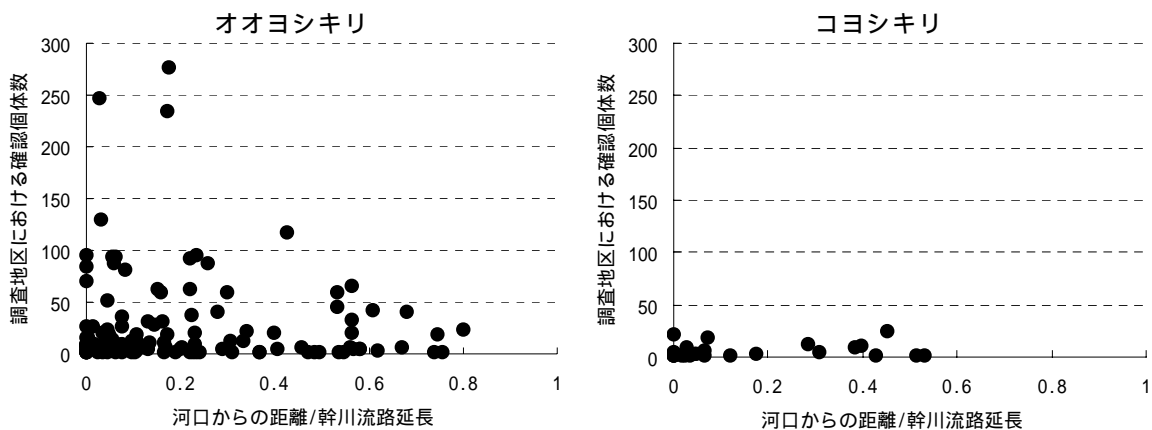
オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川中 26 河川で確認されました。コヨシキリは 15 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-22 ~ 4-23、4-51 ページ)

オオヨシキリは全国のヨシ原に広く分布する種です。コヨシキリも同様に全国のヨシ原に生息しますが、本州中部以南 (西) では高原の背の高い草原で繁殖します。両種は、ともに昆虫類等を餌とします。

オオヨシキリは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川中 26 河川で確認され、本州では概ね河川の下流から上流まで広く確認されました。コヨシキリは、北海道、本州の 15 河川で確認されました。

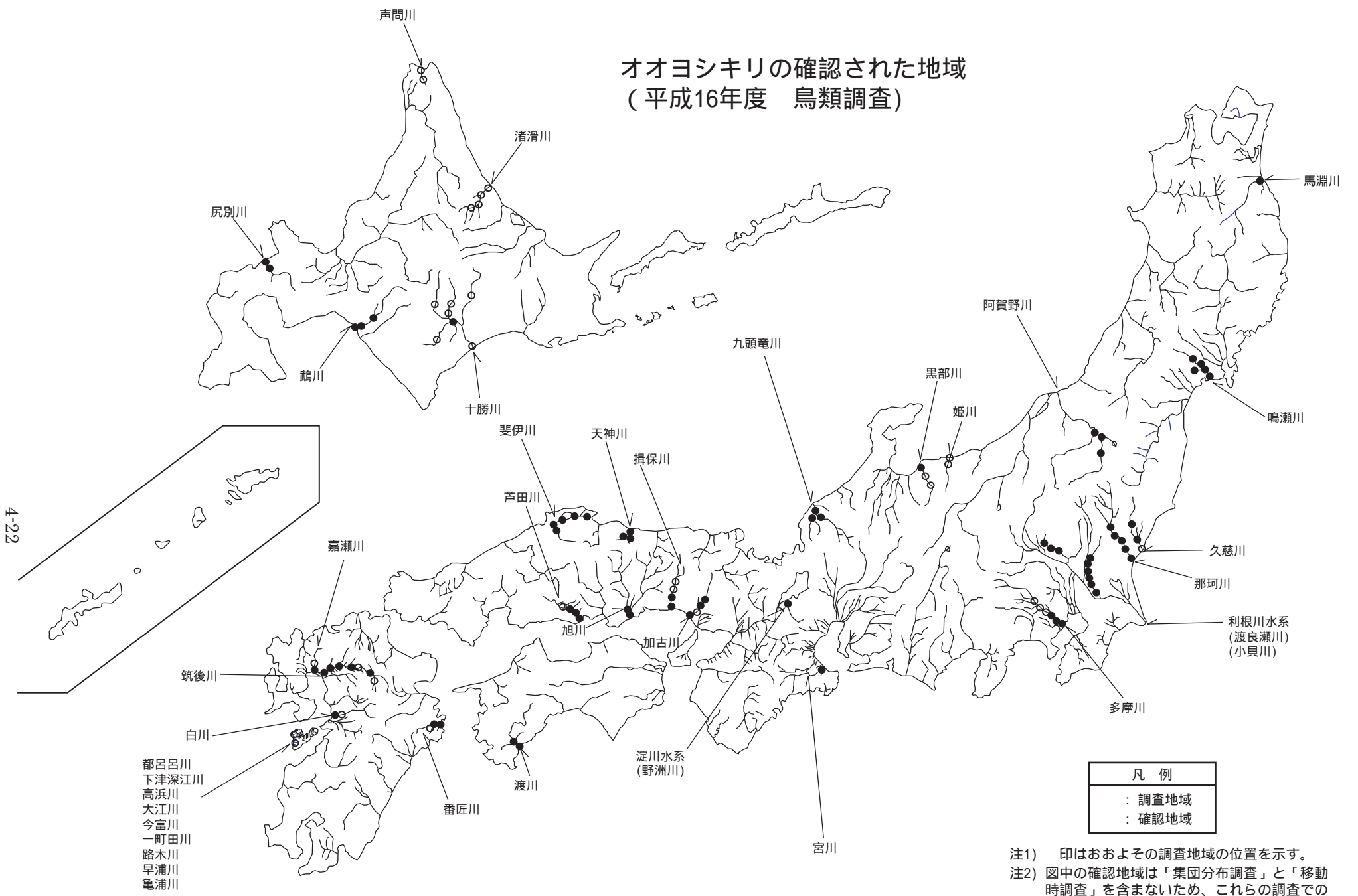
オオヨシキリ、コヨシキリの繁殖期における確認個体数とその調査地区の河口からの距離を下図に示しました。オオヨシキリは 50 個体以上確認された調査地区が下流でみられました。コヨシキリはいずれの調査地区でも 50 個体未満でした。



オオヨシキリ、コヨシキリの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1~2 回)の合計値を示した。
 注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

オオシキリの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)

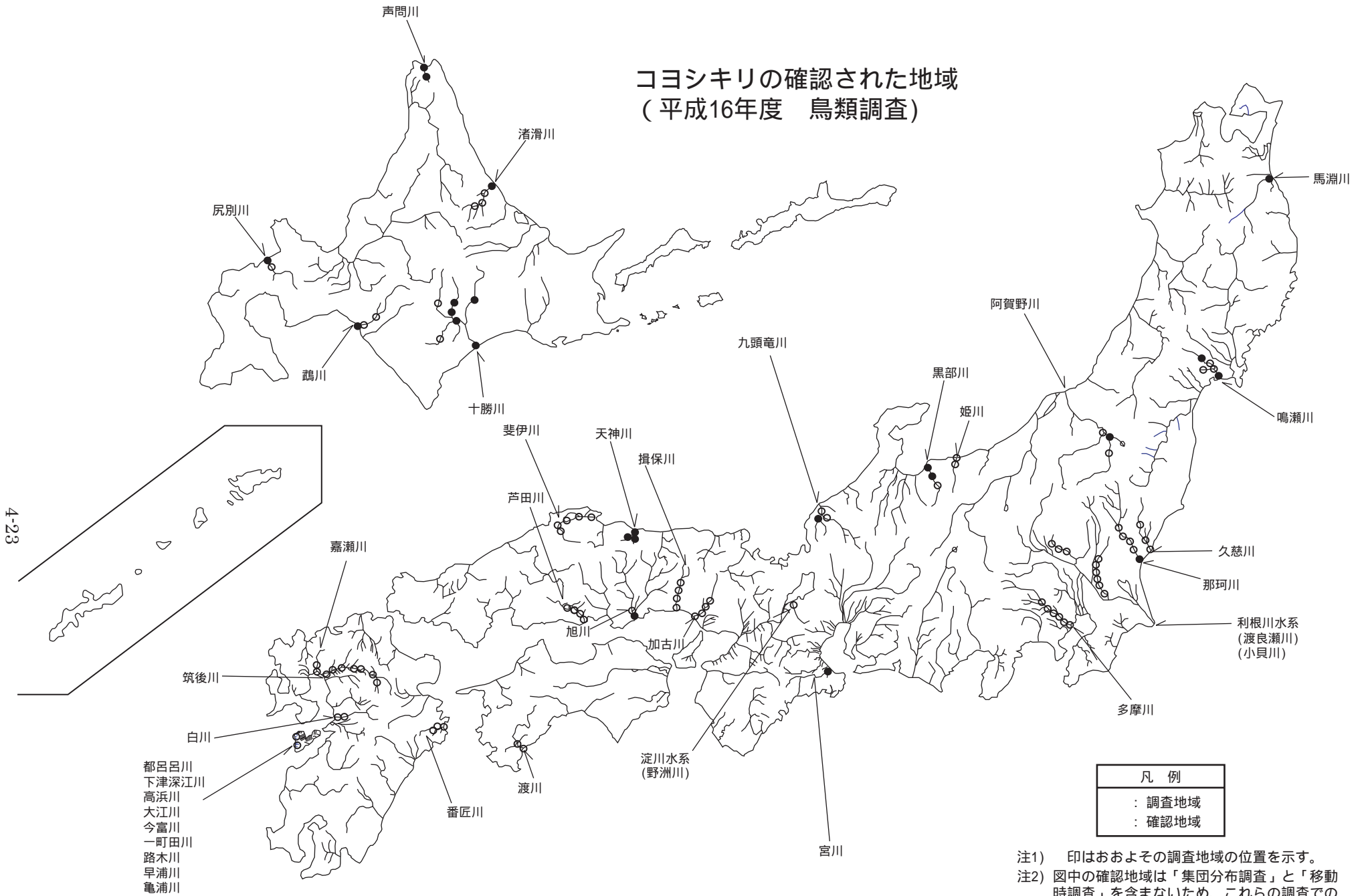


4-22

凡例	
○	: 調査地域
●	: 確認地域

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

コヨシキリの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-23

凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【河川に関わりの深い種（カイツブリ）の確認状況】

(鳥類調査)

・ カイツブリは全国ほとんどの河川で確認

ヨシの茂みの中や水草の上に浮巣を造り、水辺に依存性の強いカイツブリの確認状況を整理しました。

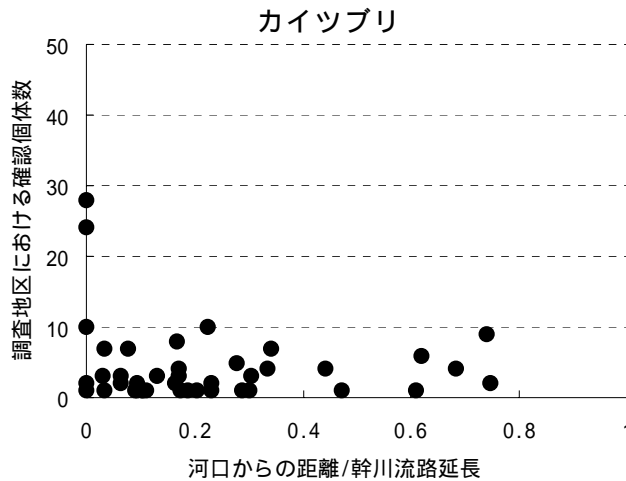
カイツブリは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、24 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-25、4-51 ページ)

カイツブリは、ヨシの茂みの中や水草の上に浮巣を造り、主に小魚や甲殻類、水生昆虫、貝類などを餌としています。西日本ではほぼ周年見られます。縄張り性が強く、本州の太平洋岸や西南日本では一年中つがいで縄張りを形成します。

カイツブリは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、24 河川で確認されました。確認位置をみると、全国の河川の河口付近から上流までの広範囲にわたって確認されました。

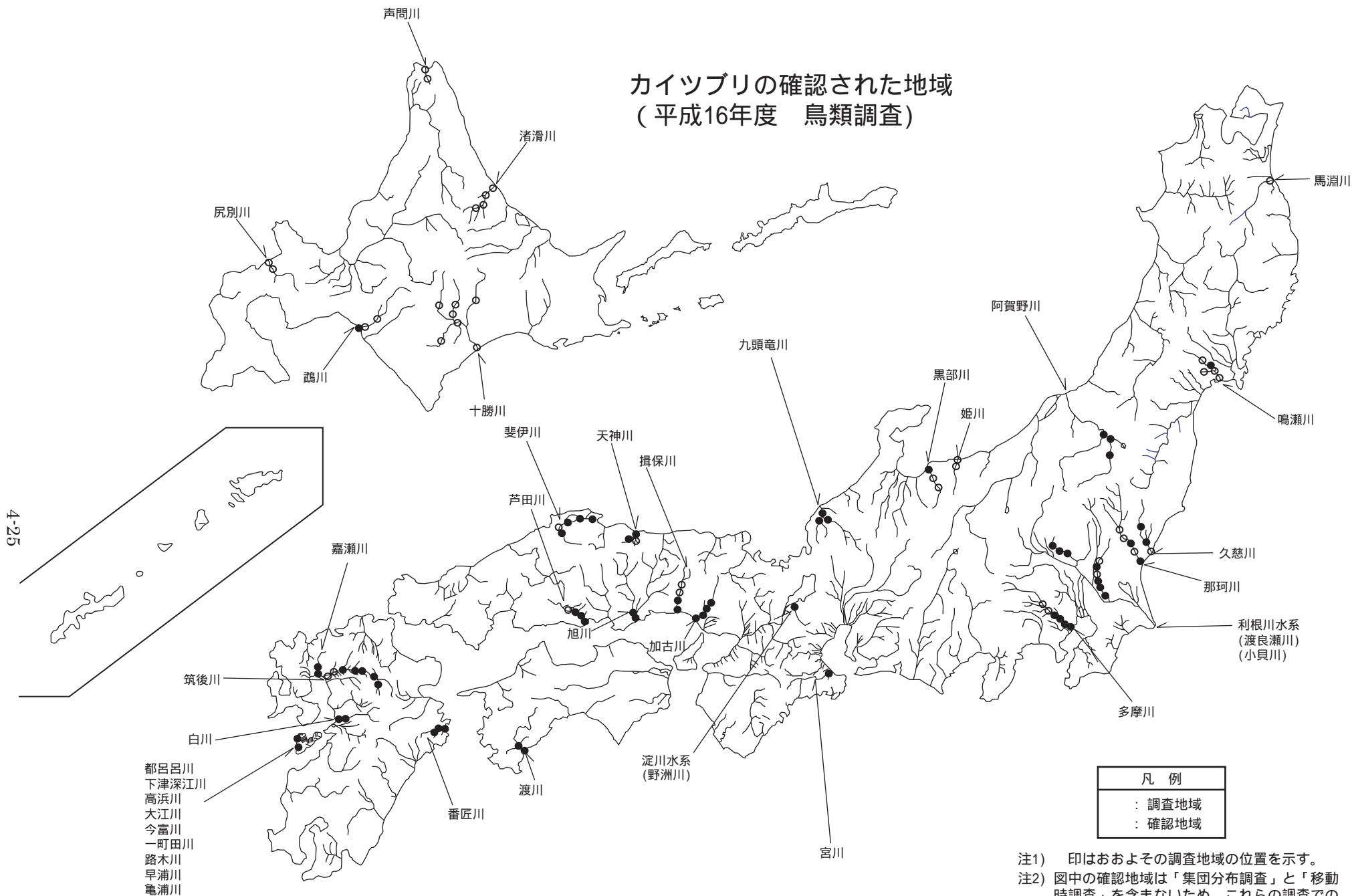
カイツブリの繁殖期における確認個体数とその調査地区の河口からの距離を下図に示しました。カイツブリは、下流から河口にかけて 10 個体以上確認された調査地域がみられましたが、おおむね 10 個体未満でした



カイツブリの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1~2 回)の合計値を示した。
 注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

カイツブリの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



声間川

渚滑川

尻別川

鶴川

十勝川

斐伊川

天神川

揖保川

芦田川

嘉瀬川

旭川

加古川

筑後川

白川

都呂呂川
 下津深江川
 高浜川
 大江川
 今富川
 一町田川
 路木川
 早浦川
 亀浦川

番匠川

渡川

淀川水系
(野洲川)

宮川

九頭竜川

黒部川

姫川

阿賀野川

馬淵川

鳴瀬川

久慈川

那珂川

利根川水系
(渡良瀬川)
(小貝川)

多摩川

【河川に関わりの深い種（カワウ）の確認状況】

(鳥類調査)

・ **カワウを全国の河川で確認**
 魚を餌とし、河畔林などに営巣地を持つカワウの確認状況を整理しました。
 カワウは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、26 河川で確認されました。
 (資料掲載: 4-27、4-51 ページ)

確認河川数の比較 (対象河川: 28 河川)

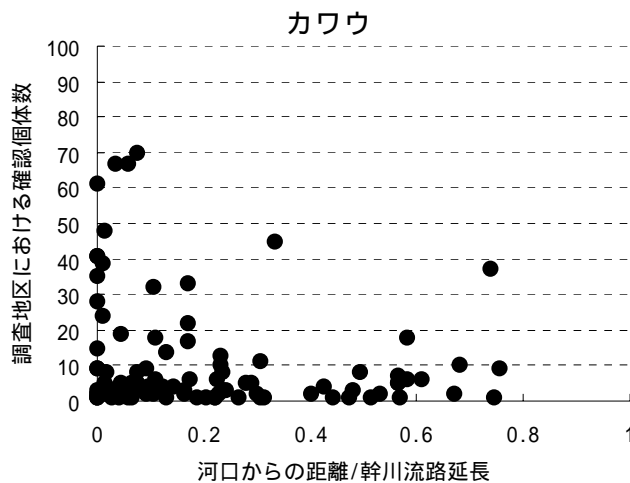
種類	前々回 調査	前回 調査	今回 調査
カワウ	19 河川	21 河川	26 河川

カワウは、内湾部や内陸の淡水、河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。一年を通して群れで生活し、水かきのついた足を使い、尾を舵にして巧みに潜水し、魚類や甲殻類を捕らえます。一時は個体数の減少が心配されたこともありますが、近年増加し、一部の地域では放流されたアユ、アマゴ、ニジマス等に食害を与えている例も知られています。

カワウは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、26 河川で確認されました。確認範囲を見ると、多くの河川で下流から上流まで広範囲で確認されていました。

カワウの繁殖期における確認個体数とその調査地区の河口からの距離を下図に示しました。カワウは、0km 付近の調査地区（河口域）で多数観察される傾向にあり、1 調査地区で 60 個体以上観察された河川もありました。

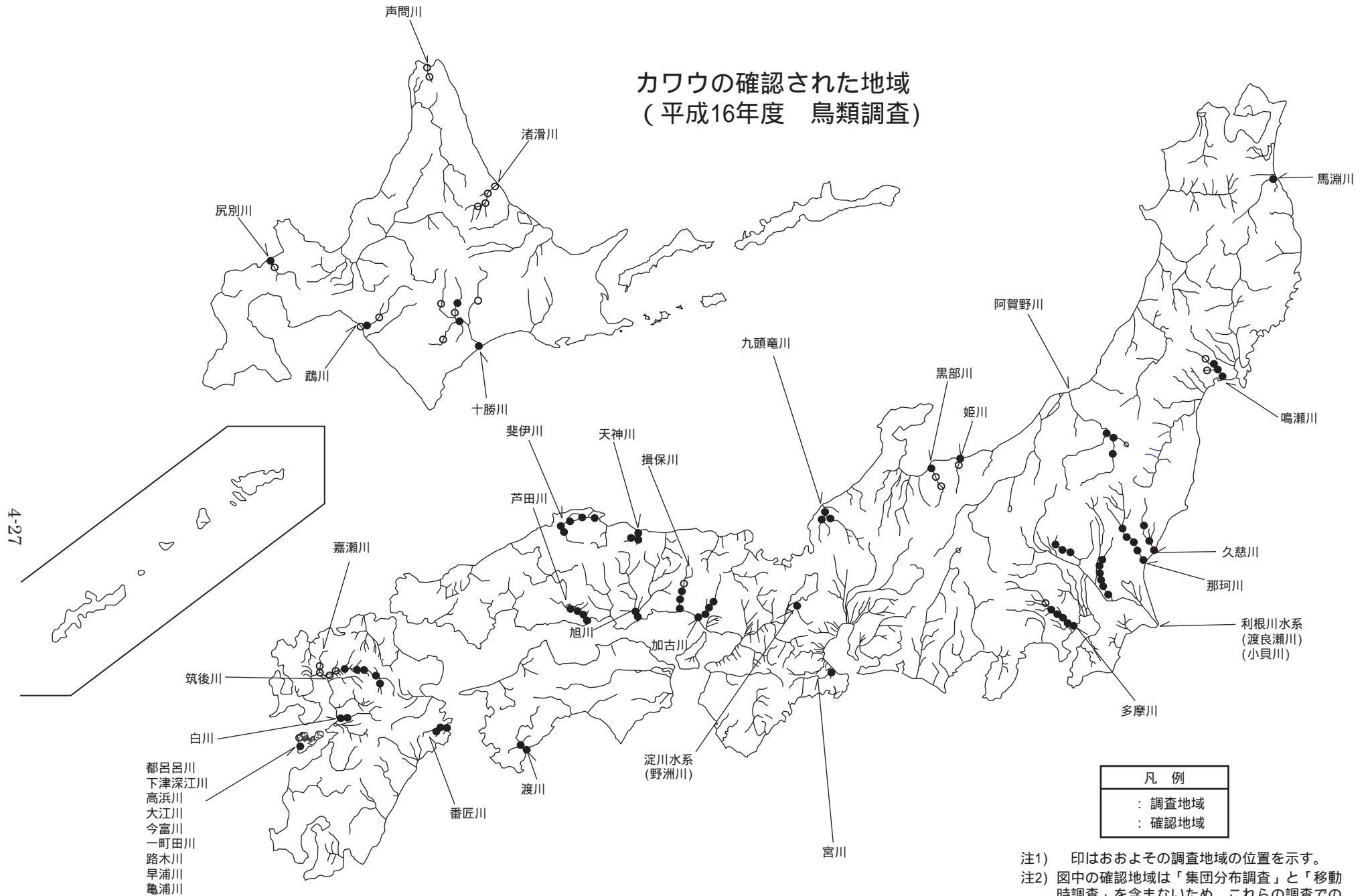
確認河川数は、前々回、前回と比べてやや増加傾向にありました。



カワウの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1~2 回)の合計値を示した。
 注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

カワウの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-27

凡例	
○	: 調査地域
●	: 確認地域

- 注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【河川に関わりの深い種（カワセミとヤマセミ）の確認状況】

(鳥類調査)

- カワセミは日本全国の一級河川のほとんどで、ヤマセミは約 5 割の河川で確認
小魚を餌とし、土の崖地などを営巣場所とするカワセミとヤマセミの確認状況を整理しました。

カワセミは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、27 河川で確認されました。またヤマセミは、一級河川 14 河川で確認されました。

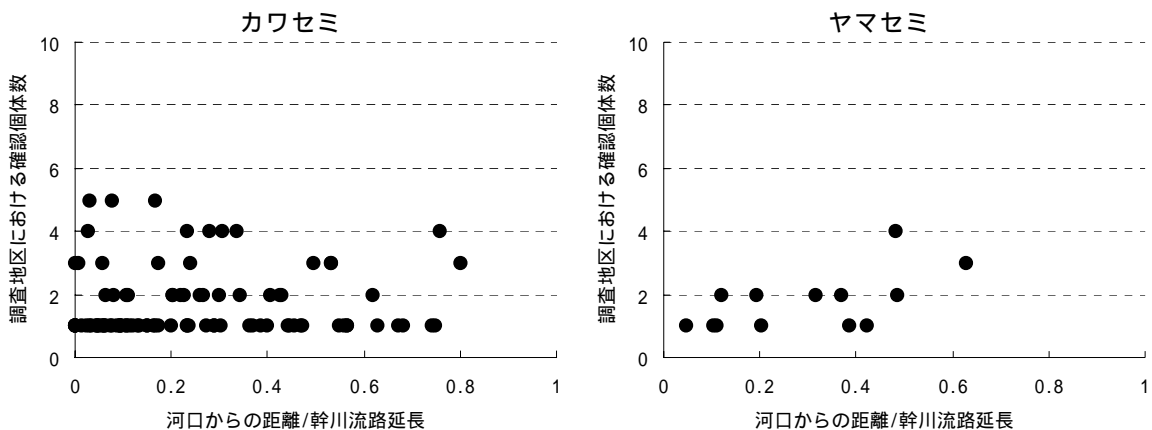
(資料掲載: 4-29 ~ 4-30、4-46 ~ 4-51 ページ)

カワセミとヤマセミは、ともに北海道地方から九州地方まで広く生息します。カワセミは、北海道では夏鳥、本州以南では留鳥 (1 年を通してみられる鳥) であり、ヤマセミは、全国で留鳥です。主に河川や池沼で小魚を餌として生活しており、営巣場所には土の崖地などが必要です。ヤマセミは主に山地や中流域に生息し、カワセミは上流から海岸近くまで生息します。

カワセミは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、27 河川で確認されました。確認された調査地区は下流から上流に至る広範囲にわたっていました。

ヤマセミは、今回とりまとめを行った一級河川のうち、北海道地方から九州地方の 14 河川で広く確認されました。確認された調査地区は概ね上流から中流域でした。

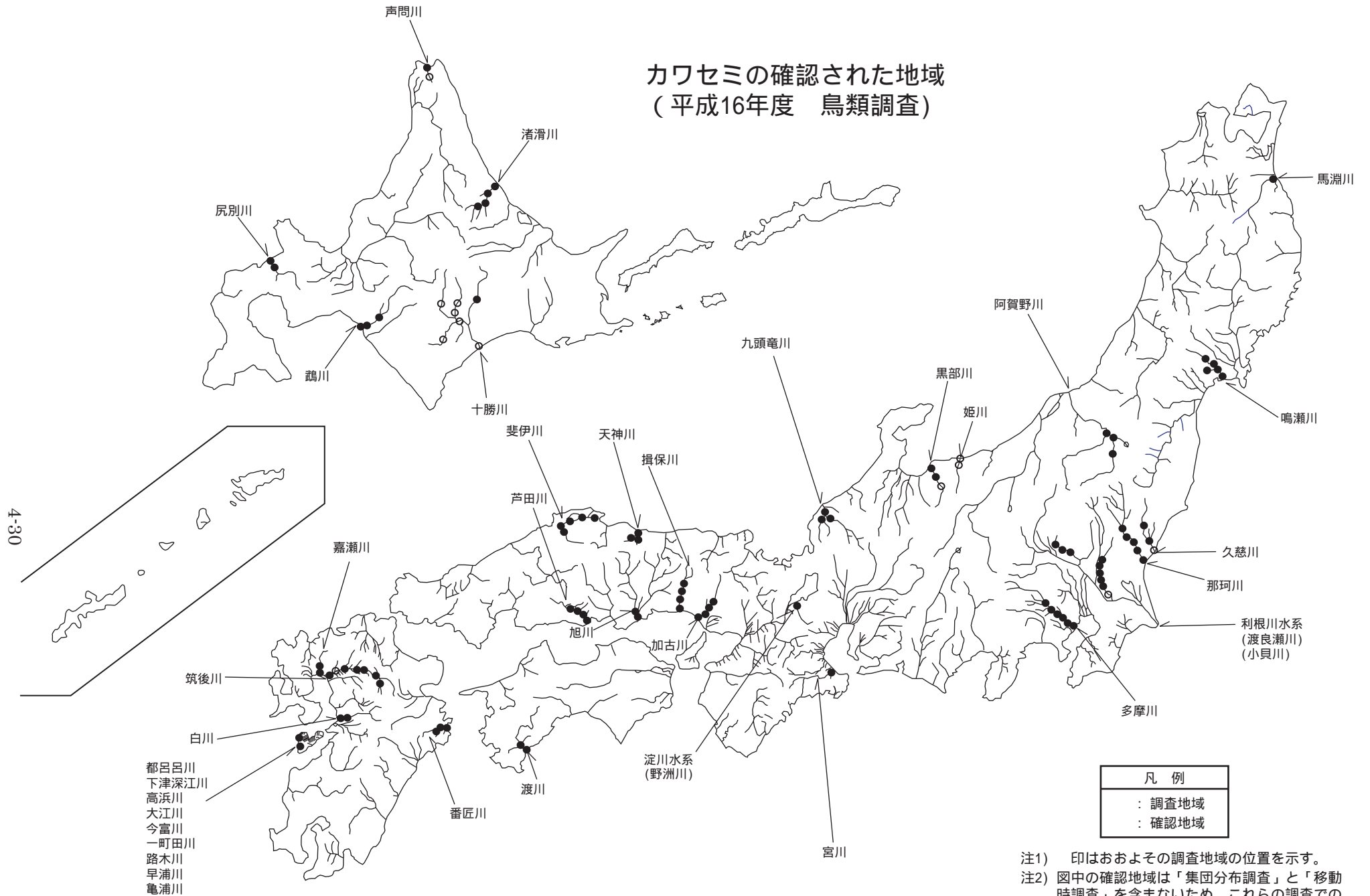
カワセミとヤマセミの繁殖期における確認個体数とその調査地区の河口からの距離を下図に示しました。カワセミ、ヤマセミとも 1 調査地区当たりにおける確認個体数は少なく、5 個体以下でした。



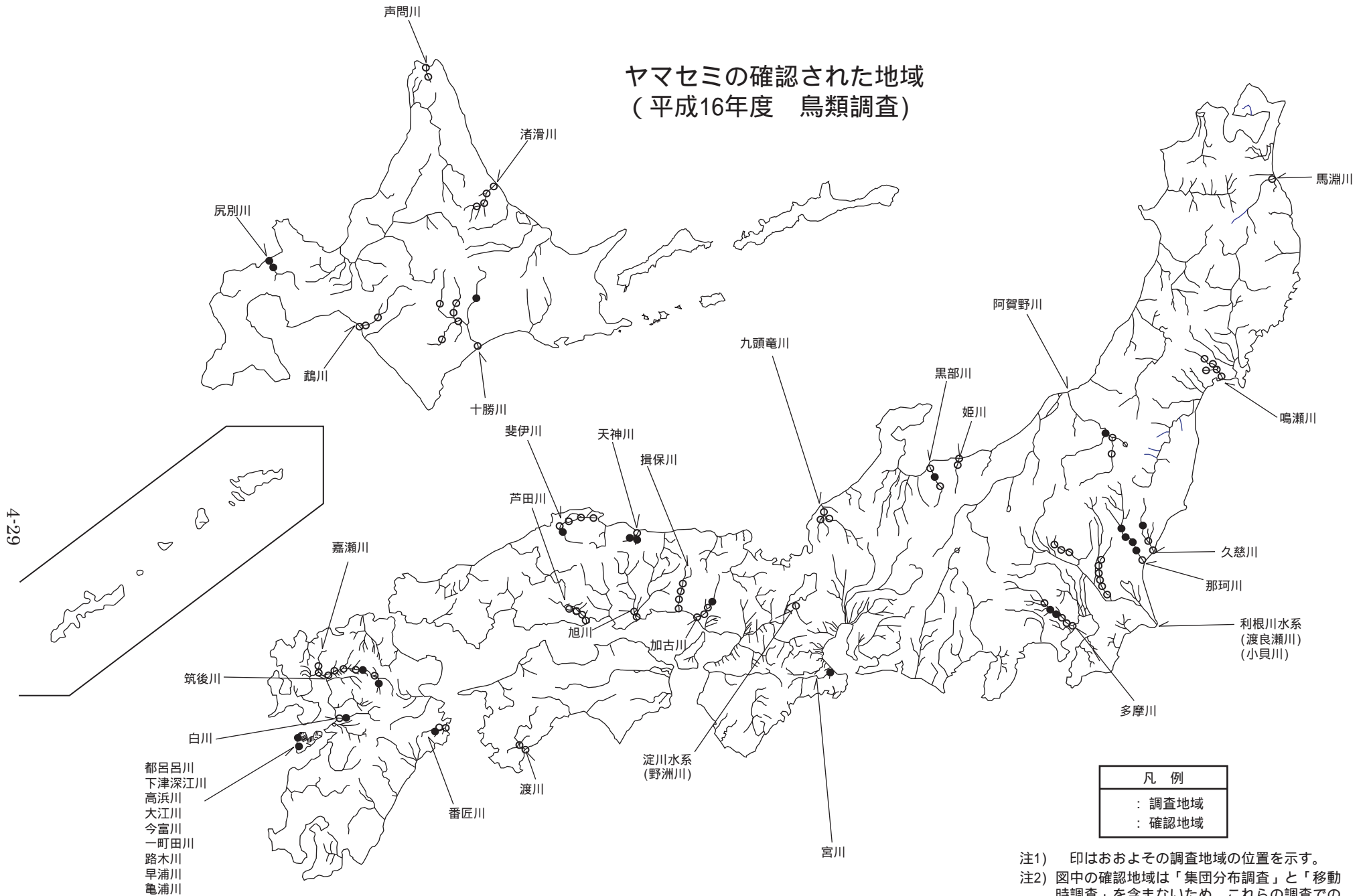
ヤマセミ、カワセミの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1 ~ 2 回)の合計値を示した。
注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

カワセミの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



ヤマセミの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-29

凡例	
○	: 調査地域
●	: 確認地域

注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【河川に関わりの深い種（キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ）の確認状況】

(鳥類調査)

- ・ 水辺の鳥であるキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイを全国のほとんどの河川で確認

良好な河川環境を考えるうえで、河川や水辺に関わりの深いキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの確認状況を整理しました。

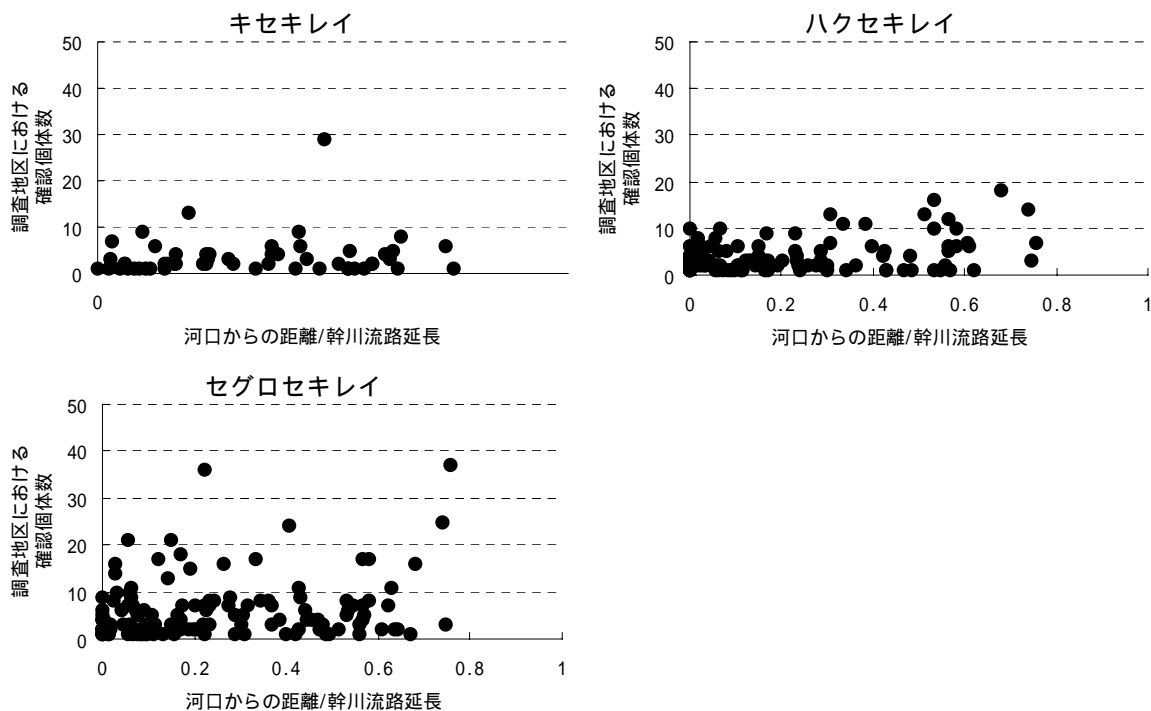
今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、キセキレイは 27 河川、ハクセキレイは 28 河川、セグロセキレイは 27 河川と、3 種ともほとんどの河川で確認されました。

(資料掲載: 4-32 ~ 4-34、4-51,52 ページ)

キセキレイは、日本では九州以北で繁殖し、冬は本州中部以南に普通にみられます。平地から山地の川、湖沼の近くに生息します。ハクセキレイは、関東以北と九州、中国地方の一部で繁殖するほか、冬鳥として多数飛来し、冬は本州以南で普通にみられます。海岸、河口、広い河原や水田に生息し、川の上流や山地の水辺には少ないといわれています。セグロセキレイは、主に日本に分布し、北海道から九州まで繁殖し、ほとんどの地方で一年中みられます。中流域の広い河原や湖沼の近くに生息し、都会でも近くに水辺があれば生息できます。

3 種とも、今回とりまとめを行った一級河川 31 河川のほとんどの河川で確認され、観察範囲も河川の広い範囲にわたりました。

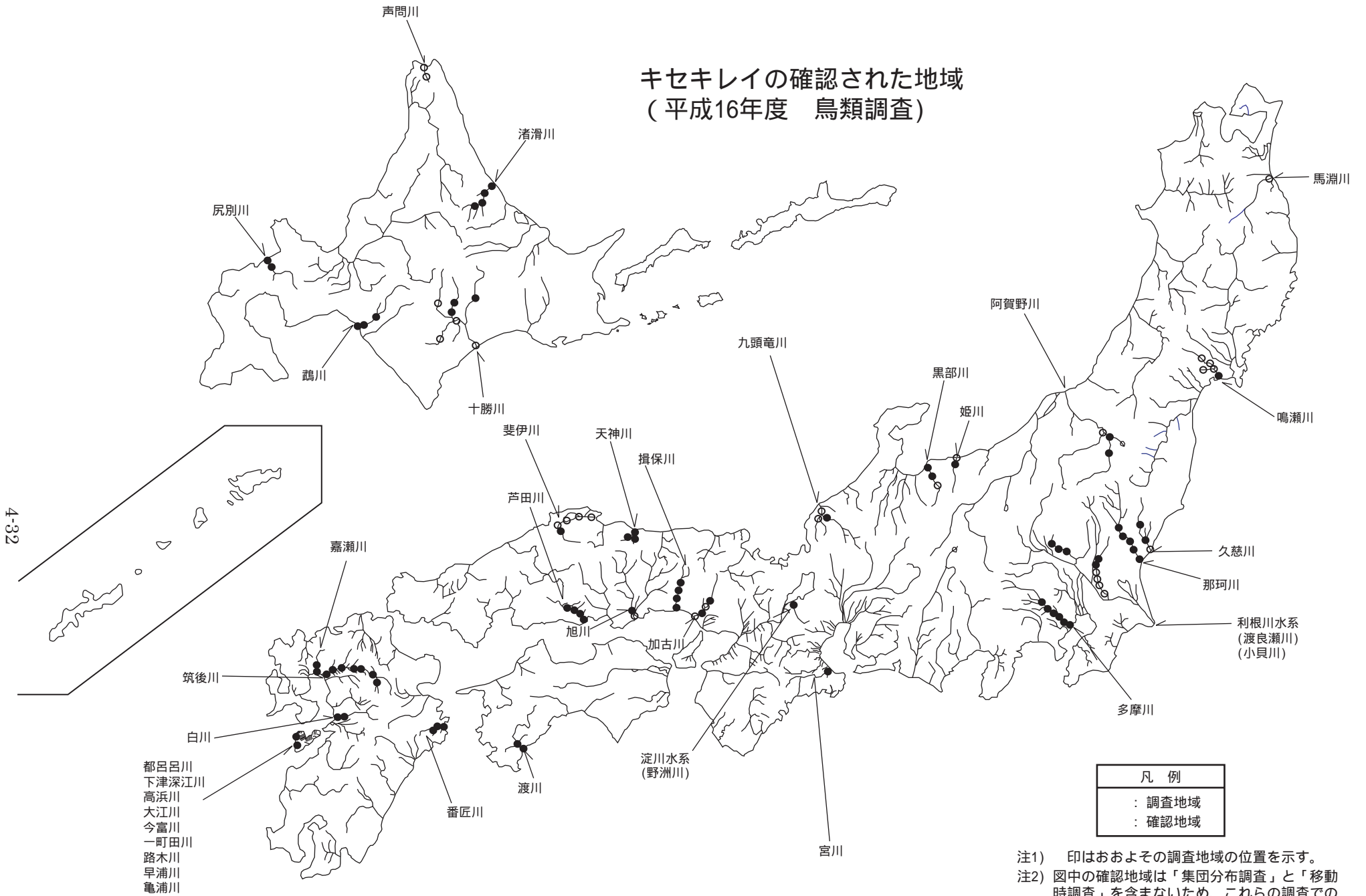
キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの繁殖期における 1 調査地区当りの確認個体数とその調査地区の河口からの距離を下図に示しました。キセキレイは、1 調査地区当りの確認個体数はおおむね 10 個体以下でした。ハクセキレイは 10 ~ 20 個体確認された河川も多くみられました。セグロセキレイは 20 個体以上確認された河川もありました。



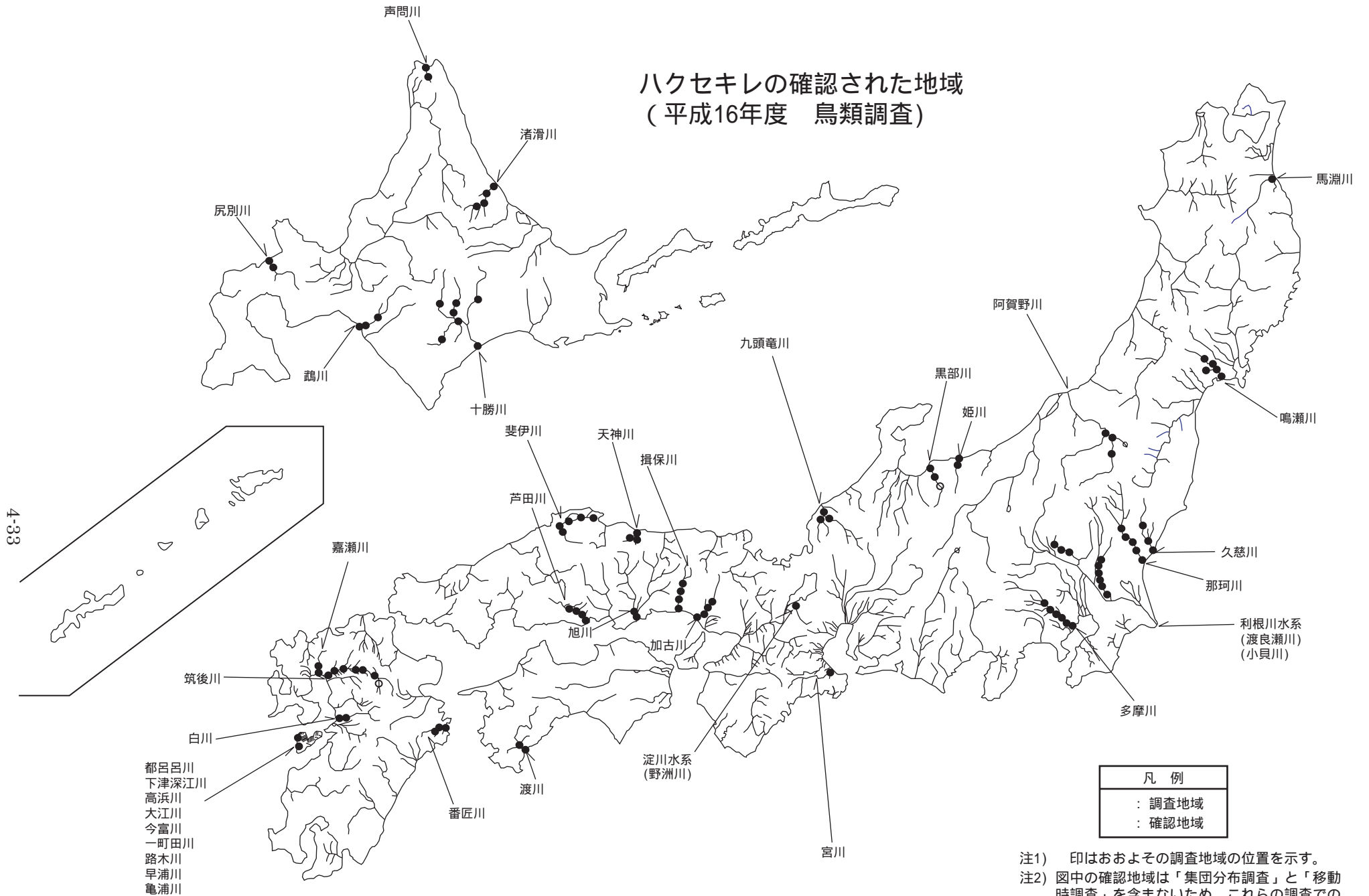
キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1 ~ 2 回)の合計値を示した。
 注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

キセキレイの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



ハクセキレの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)

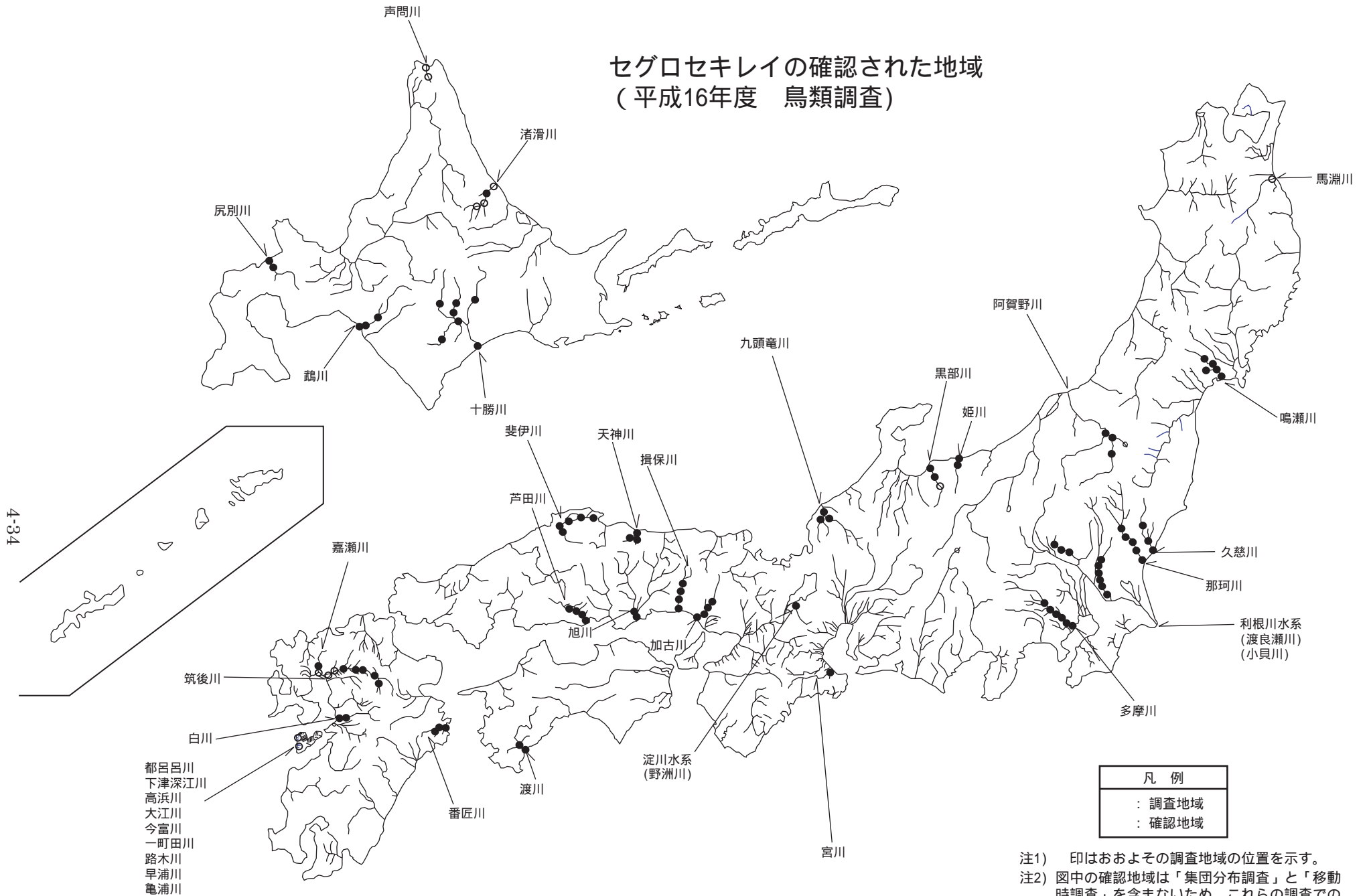


4-33

凡例	
○	: 調査地域
●	: 確認地域

- 注1) 印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

セグロセキレイの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



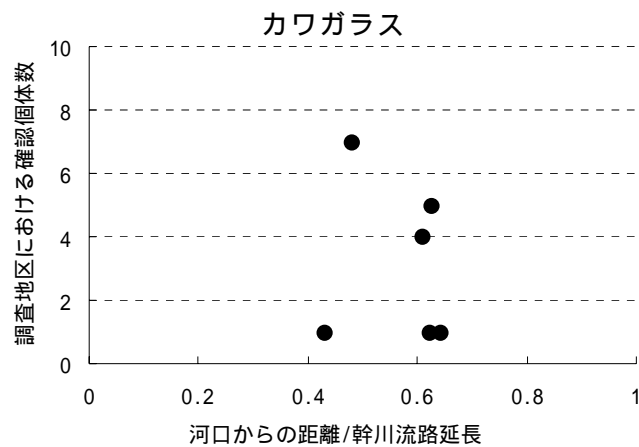
【河川に関わりの深い種（カワガラス）の確認状況】

(鳥類調査)

- カワガラスは全国の約半数の河川で確認
水生昆虫を餌とするカワガラスの確認状況を整理しました。
カワガラスは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、日本全国の 12 河川で確認されました。

(資料掲載: 4-36、4-52 ページ)

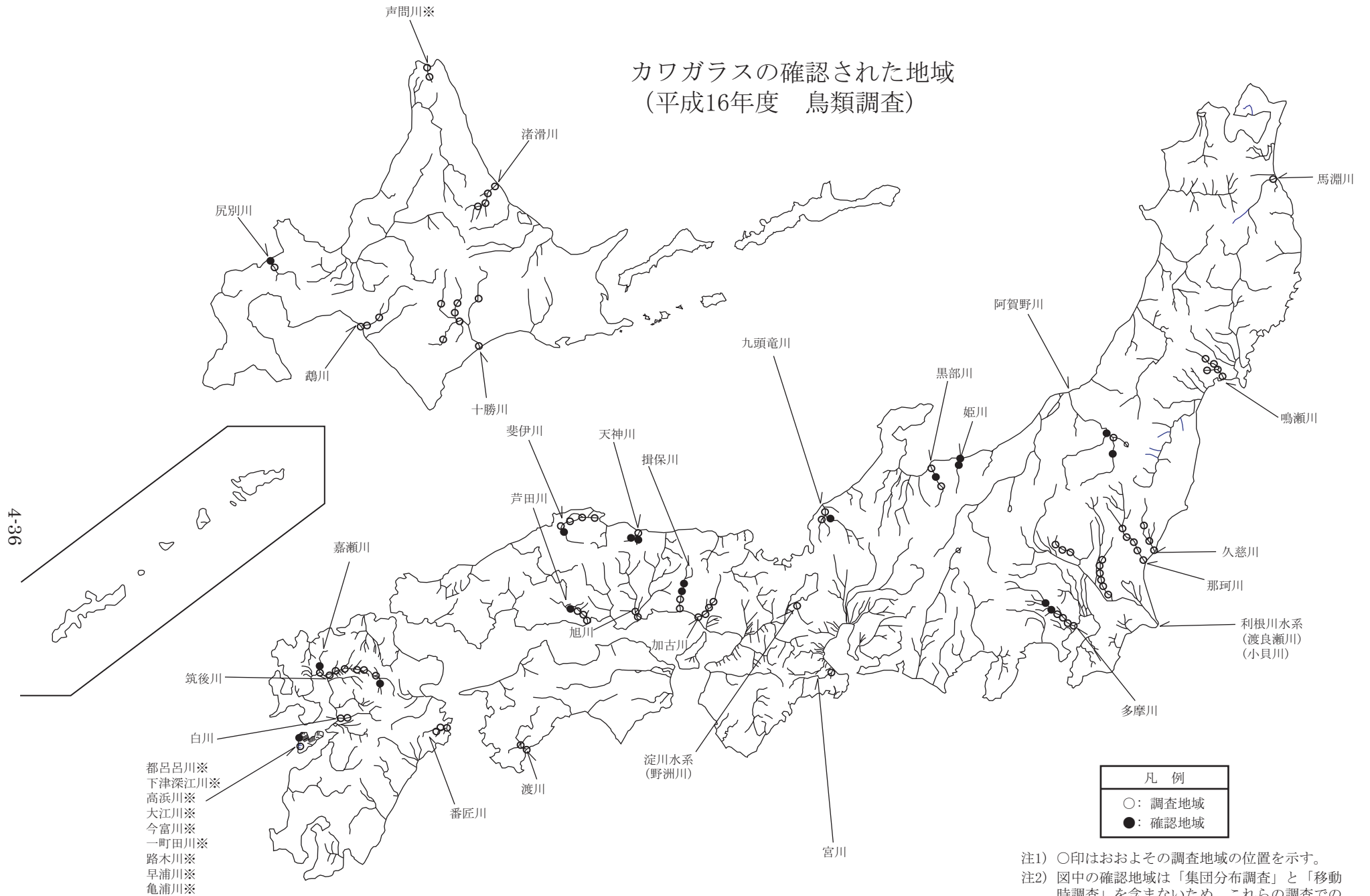
カワガラスは、水生昆虫などを餌として生活しています。滝の裏や堰堤の水抜き穴などを営巣場所とし、主に水質の良好な上流域を生息場所としています。カワガラスは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、日本全国の 12 河川で確認されました。確認位置は主に上流域でした。



カワガラスの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1~2 回)の合計値を示した。
注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

カワガラスの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



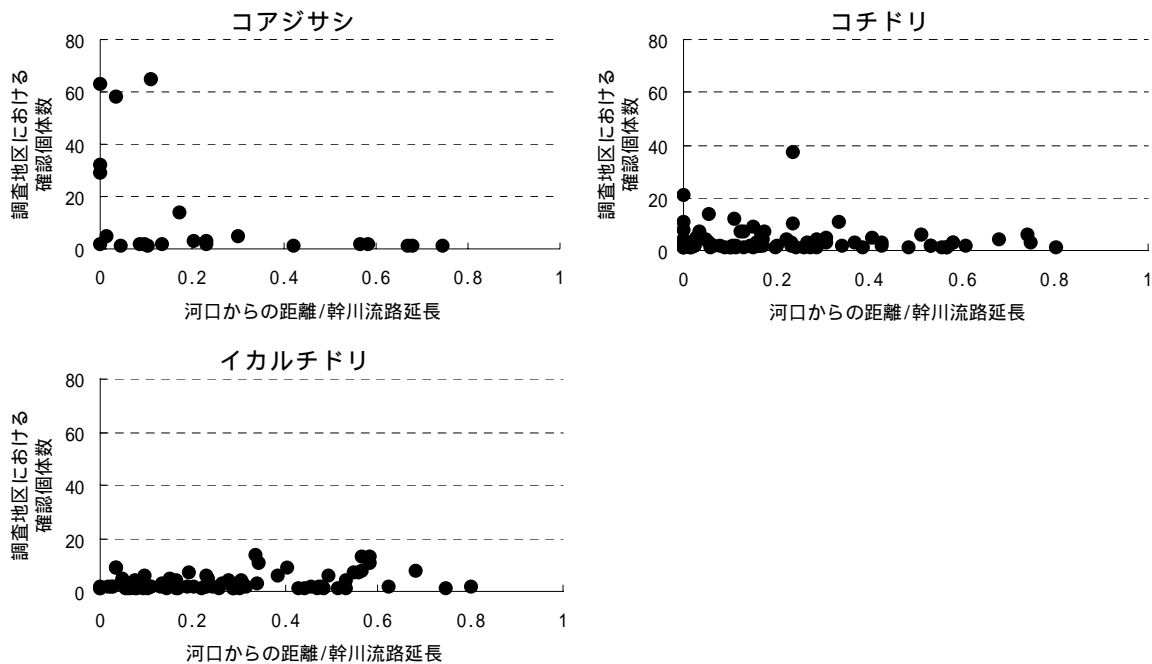
【河川に関わりの深い種（コアジサシ、コチドリ、イカルチドリ）の確認状況】 (鳥類調査)

- 砂礫河原で営巣するコチドリ、イカルチドリを全国のほとんどの河川で確認**
 河川での砂礫河原や砂洲の状況を把握するため、砂礫地で営巣するコアジサシ、コチドリ、イカルチドリの確認状況を整理しました。
 コアジサシは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、14 河川で確認されました。また、コチドリ、イカルチドリは、ともに 27 河川と全国のほとんどの河川で確認され、確認位置も河川の広い範囲にわたっていました。
 (資料掲載: 4-38 ~ 4-40、4-52 ページ)

コアジサシは赤道を越えてオーストラリアから渡ってくる夏鳥です。日本では本州以南（西）でみられ、海岸や大きな川の河口や中州のような、砂や砂利の上に簡単な巣を作って2~3個の卵を産みます。数が減少しているといわれ、環境省のデータブック（2002）では絶滅危惧II類に指定されています。コチドリは、主に夏鳥として飛来し、川の中流から下流の砂礫河原、海岸の砂丘や埋立地などに営巣し、全国で繁殖します。イカルチドリは、日本では留鳥として本州以南（西）で繁殖します。主な生息場所は、コチドリよりも上流の河原で、氾濫原の礫の多いところで営巣し、砂や土の多い埋立地では繁殖しません。

コアジサシは、今回とりまとめを行った一級河川 28 河川のうち、北海道地方、九州地方を除く 14 河川で確認されました。また、コチドリ、イカルチドリはともに 27 河川と全国のほとんどの河川で確認され、確認位置も河川の広い範囲にわたっていました。

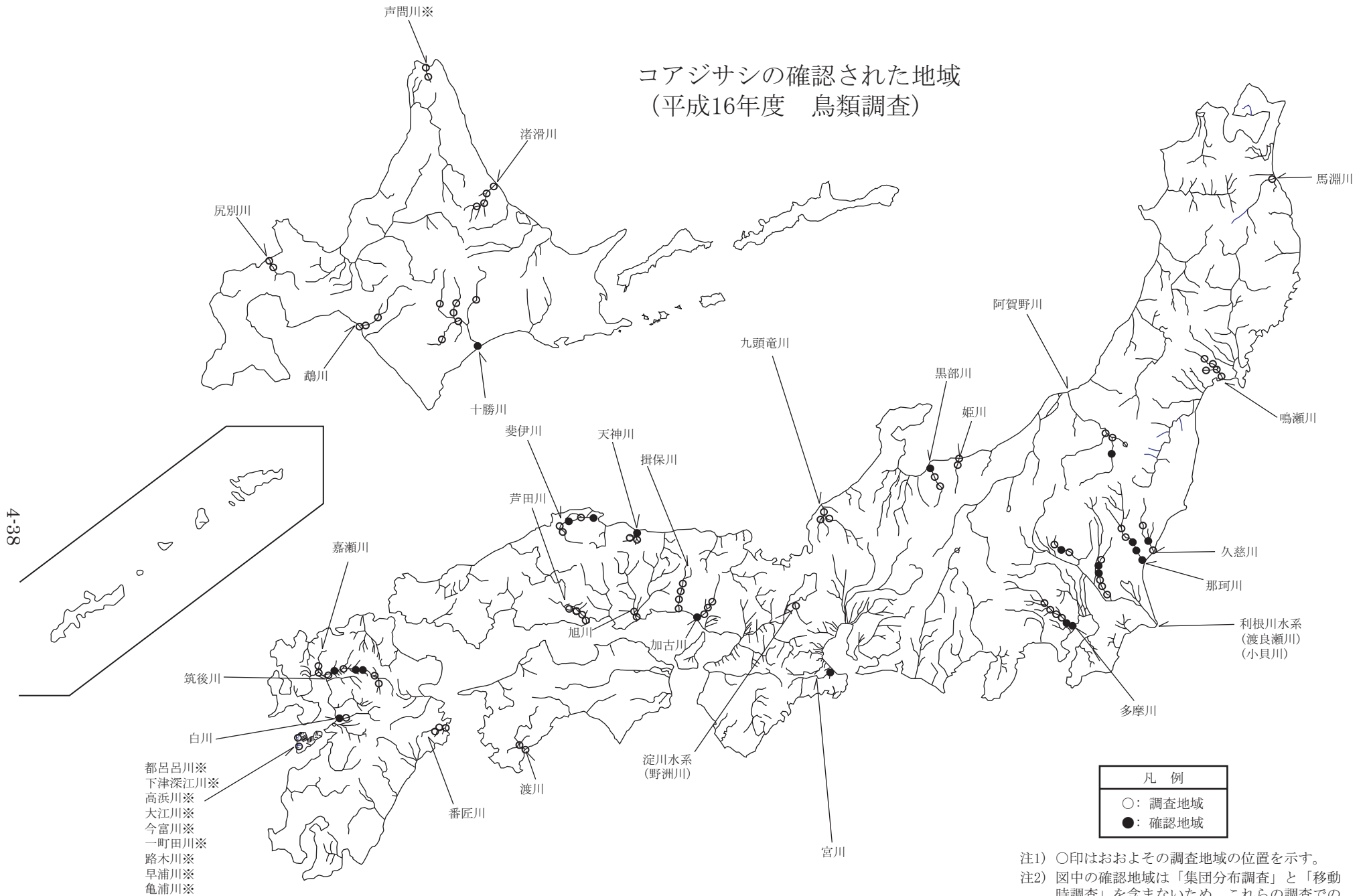
コアジサシ、コチドリ、イカルチドリの繁殖期における 1 調査地区当りの確認個体数とその調査地区の河口からの距離を下図に示しました。コアジサシが河口付近で確認個体数のやや多かった調査地区がみられた他は、概ね 20 個体以下でした。



コアジサシ、コチドリ、イカルチドリの繁殖期における確認個体数

注 1) 確認個体数は繁殖期間中に行われた全調査(おおむね 1~2 回)の合計値を示した。
 注 2) 河口からの距離は流路延長に対する比率で示した。

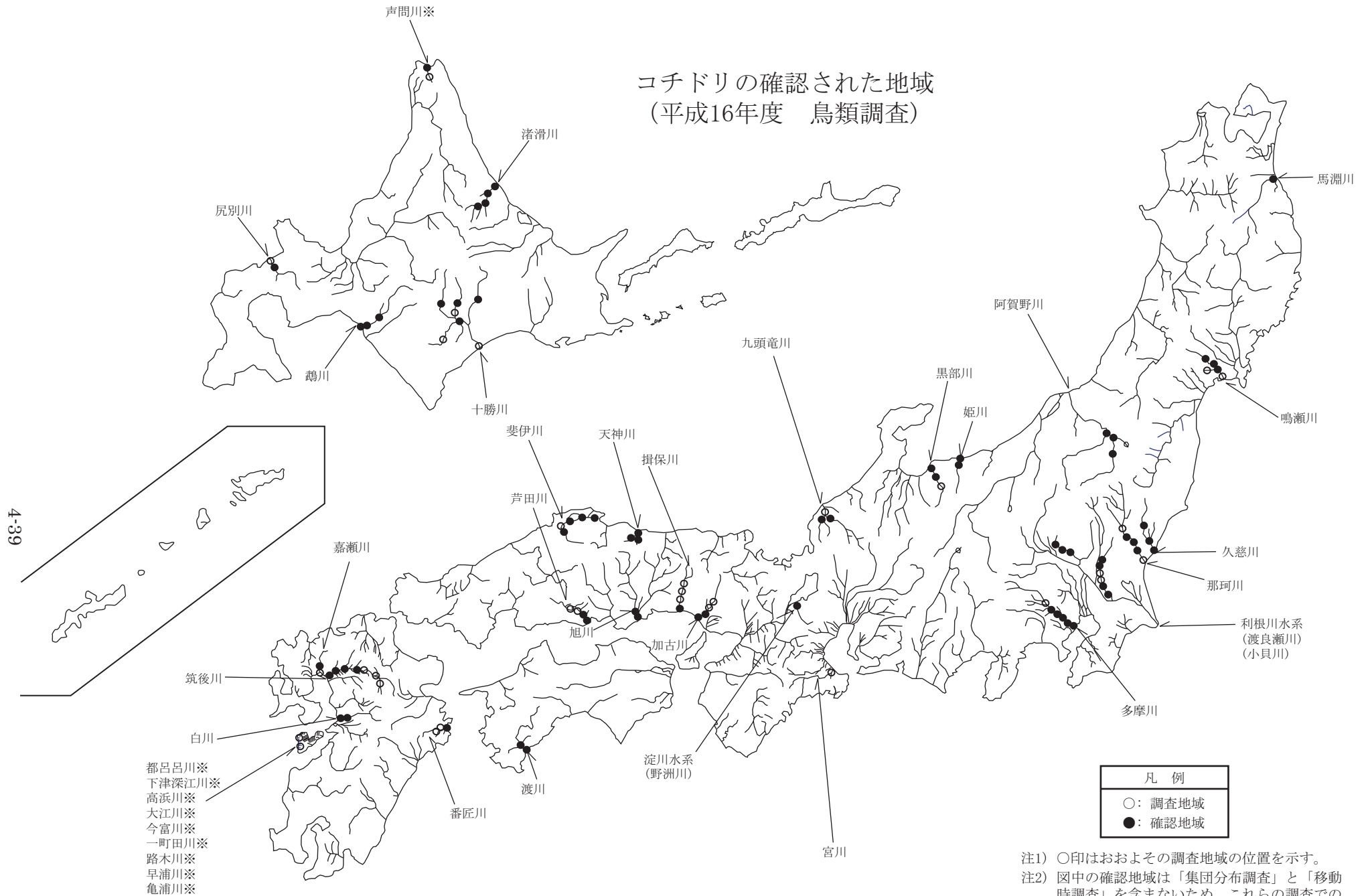
コアジサシの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-38

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

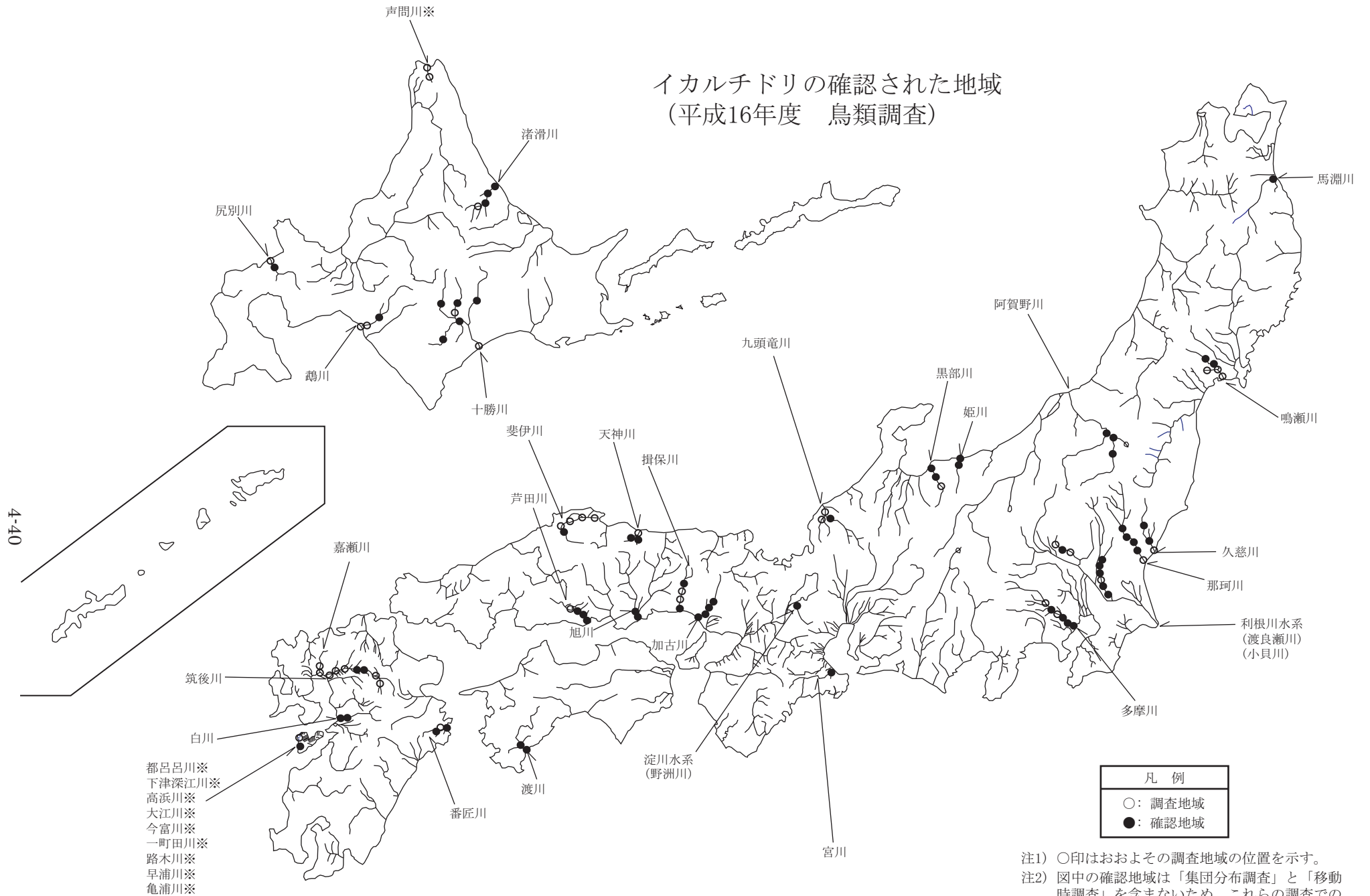
コチドリの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-39

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

イカルチドリの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-40

凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

【河川に関わりの深い種（ハマシギ）の確認状況】

(鳥類調査)

・ ハマシギは全国河川の約6割で確認

河川での干潟の状況を考える上で、日本に広く分布し、干潟を利用するハマシギの確認状況を整理しました。

ハマシギは、今回とりまとめを行った一級河川28河川のうち、全国の16河川で確認されました。また、全国の広い範囲で越冬していることがうかがえました。

(資料掲載: 4-42、4-52 ページ)

ハマシギは、日本全国の干潟に飛来する渡り鳥で、北海道、東北地方では主に旅鳥、関東以南(西)では主に冬鳥です。ゴカイや小型の甲殻類などを食べます。広大な干潟や河口の砂州や岸辺などで、多くのハマシギが集まって群れで活動します。ハマシギは、今回とりまとめを行った一級河川28河川のうち、全国の16河川で確認され、また、全国の広い範囲で越冬していることがうかがえました。確認された位置は、主に河口近くでした。

ハマシギの確認時期

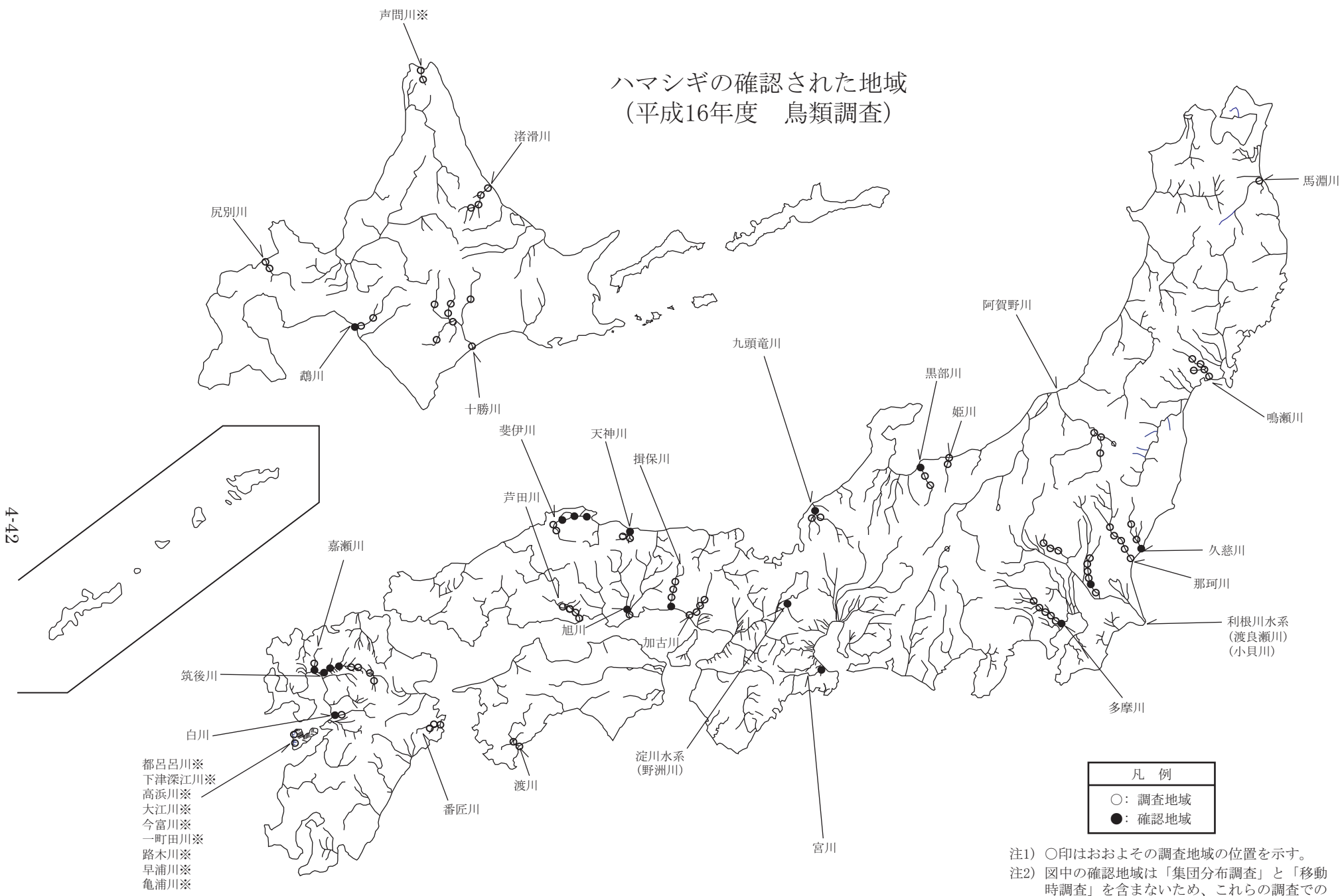
地方	調査時期 河川	2004												2005						
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
北海道	鶴川													404						
関東	久慈川					10														
	利根川(小貝川)													2						
	多摩川				52	15								1						
北陸	阿賀野川		2					()			()	()								
	黒部川					30							15							
中部	宮川										12		222			133		313		
近畿	淀川(野洲川)												5							
	揖保川									5										
	九頭竜川					1														
中国	天神川					1				11										
	斐伊川					90			103	3			12		15					
	旭川					2														
九州	筑後川									112	2		503		474					
	嘉瀬川										10		36							
	白川				350					6			18							

注1)ハマシギが確認された河川のみを記載した。

注2) は調査月、数値は確認個体数を示す。

注3) () は2003年度の調査結果

ハマシギの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



4-42

凡 例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。